



増田かおる



2022年4月26日 発行人 増田薫

議会レポート Vol.28



こんにちは、増田薫です。ロシアによるウクライナへの侵攻が続いています。戦争はどんな理由があっても許されませんし、庶民の暮らしも命も、伝統文化も一瞬で失います。先進諸国で最低の食料自給率 36%の日本は、この戦争の影響を受け食料品等の物価が上がっています。一緒に平和の声をあげ、農地を守りましょう。

3月議会の注目議案



東松戸病院廃止条例 賛成多数で可決 **私は反対しました** ~その問題点とは~

* 新聞報道で知った!? 突然の「東松戸病院廃止」

松戸市は『総合医療センター（急性期）』と『東松戸病院（慢性期・回復期）』の2病院を運営しています。昨年（2021年）8月、市長は議会に何の説明もなく「東松戸病院廃止」を決定、私も新聞報道で知りました。その後の9月議会で市は「廃止したい旨」を説明、主な理由は「赤字」と「老朽化」でした。赤字については、たどれば国からの医療予算が削られたことが原因ですし、老朽化については、施設改修のための基金も作らず、30年近くまともな修理をしてこなかったのが原因です。

* 高齢化社会に向けた2病院の医療体制が続けられてきた

東松戸病院の開設は30年前。当時の宮間市長は、医療構想を検討する部会を立ち上げ、医師会・歯科医師会・薬剤師会・旧市立病院の医師、議員や職員も加わり、約1年半にわたり検討を重ねました。その結果、2病院体制で高齢化に備えた地域福祉医療構想を決定し、議会においても全会一致で承認されました。

* いつ、どこで、誰が決めたのか分からない

この決定の経緯を知るために、会派の DELI 議員が開示請求しました。すると、市の最高決定機関という「総合政策会議」の「議事録が存在しない」ことが判明しました。情報公開は民主主義の基本中の基本。総合政策部長は「指摘を機に、議事録の概要を作成する」と説明しましたが、東松戸病院廃止の記録はありません。

* 市民の反対意見は無視された

「市民に説明すべきだ」との議会内外からの声に対し、市は地域住民だけを対象にした説明会を5回行いましたが、市長はどこにも出席しませんでした。しかも説明会では、廃止に反対する意見がほとんどでした。市全体で説明会を開いてほしいとの声に対しては「パブリックコメント（パブコメ：意見募集のこと）で対応する」と回答。ところがパブコメに集まった約190の意見のうち約90%に当たる、約170の意見が「廃止反対」であったにもかかわらず、市は方針を全く変えませんでした。

増田かおるからのひとこと



東松戸病院廃止の問題は2つ、決定の不透明さと、市民合意なしの条例提案・廃止決定だと思います。市政の中で、このような市民を無視した事例が多すぎると感じています。今後も、市民の声に耳を傾けるよう、強く求めていきます。 ●●東松戸病院 047-391-5500 ●●

◆予算審査より◆
賛否の分かれた議案について、その理由はHPからご覧いただけます。



一般会計予算に反対しました

一般会計予算のうち、新松戸駅快速列車停車に関する調査費、市庁舎のあり方を検討する委託業務など、認められないと考えた4つの事業の削除を予算審査特別委員会で提案しましたが、否決されたため、私は元の予算に反対しました。市の考え方や方向性に関わる、無視できないものだったからです。

ワクチン接種2件に質疑

子宮頸がんワクチンと

5~11歳の新型コロナワクチン接種事業

デメリット（不利益情報）を伝えないのはおかしい

「この2つのワクチンの共通点は、どちらも「保護者が接種の選択を決めること」です。選択をするためには、メリットとデメリットの両方を知る必要があると思いますが、市はデメリットの情報をほとんど提供していません。



「厚労省ワクチン分科会副反応検討部会」に提出された資料によると、過去2年間にコロナに感染した28,124人に対し、10代のコロナ感染による重篤例は6名・死亡10名です。一方、コロナワクチン接種が始まってからの半年間に10代でワクチン接種した1,513人のうち、接種後の重篤例は387名・死亡7名。ワクチン接種後の死亡・重篤例の方がコロナウイルス感染死亡より割合が高かったのです。

ワクチンとの因果関係は判明していませんが、逆に因果関係が無いことも証明できていません。市民からも要望書が出されており、メリットとデメリット、どちらの情報も丁寧に提供をするべきだと主張しました。